

共同研究等の料金積算と費用の見える化について  
～採算管理の高度化をどう進めるか～

公認会計士 江戸川 泰路

2016年11月2日



# Contents

- |                           |    |
|---------------------------|----|
| 1. 費用負担に係る大学への要請と産業界への期待  | 2  |
| 2. 透明性の高い料金積算の必要性         | 3  |
| 3. 透明性の高い料金積算の在り方         | 4  |
| 4. アワーレートの利点              | 5  |
| 5. アワーレート方式(間接費込)による料金積算例 | 6  |
| 6. アワーレート方式(間接費別)による料金積算例 | 7  |
| 7. アワーレート方式を用いた場合の大学側の留意点 | 8  |
| 8. アワーレート方式を用いた場合の予算配分例   | 9  |
| 9. アワーレート方式を用いた場合の実績報告例   | 10 |
| 10. 研究開発プロジェクトの採算管理例      | 11 |

# 1. 費用負担に係る大学への要請と産業界への期待

「本格的な産学連携による共同研究の拡大に向けた費用負担等の在り方について」  
(平成27年12月28日 イノベーション実現のための財源多様化検討会)

- 今後、大学と産業界の双方が納得できる費用負担の考え方に沿って共同研究を進めるためには、大学はエビデンスに基づく「費用の見える化」を進めるとともに、大学と民間企業の「組織」対「組織」の関係の中で交渉を行い、適切な費用負担を大学は産業界に求めることが重要である。
- また、産業界においては、大学の現状も踏まえつつ、「組織」対「組織」の共同研究の契約を進め、そのために必要な経費を適切に措置するとともに、大学とともに、共同研究の大規模化や基礎研究段階からの共同研究等へ積極的に参画していくことが期待される。

## 2. 透明性の高い料金積算の必要性

「本格的な産学連携による共同研究の拡大に向けた費用負担等の在り方について」  
(平成27年12月28日 イノベーション実現のための財源多様化検討会)

- こうした間接経費の積算を前提とすれば、これまでの各大学の間接経費の規程等に基づく共同研究の契約では、共同研究に実際に必要となる間接経費を確保することができず、共同研究を進めれば進めるほどに不足が高じてしまい、大学経営に悪影響を及ぼす可能性も否めない。



**大学は、従来の共同研究等に係る料金積算方法を改め、  
持続可能な適正料金を受け入れる必要がある。**

### 3. 透明性の高い料金積算の在り方

#### 1. 常勤教員の人件費を含める

従来の共同研究等の料金の積算方法における問題点として、料金の積算に常勤教員の人件費が含まれていないことがあげられる。共同研究等において成果をあげていくために最も重要な役割を果たすはずの常勤教員の人件費は、当然に料金に含めるべきである。

#### 2. 適正な間接費を積算する

適正に間接費を積算する考え方としては、下記の2通りの方法が考えられる。

①教員の直接関与時間に応じて積算する方法(アワーレート方式)

②一定のルールに基づいて算定した間接費率にて積算する方法(米国F&A costs方式)

※但し、①、②いずれの方法においても、最終的な単価や率は個々の交渉で決する。

## 4. アワーレートの利点

### 1. 共同研究等に関与している時間数のみを把握すれば足りる

人件費の積算にアワーレートをを用いず、実績単価を用いる場合、共同研究等に関与する常勤教員に対し、全ての業務について時間管理を行うことが必要になるが、アワーレートをを用いる場合には、共同研究等に関与している時間数のみを管理すれば足りる。

### 2. 算定が煩雑でない

人件費の実績単価を算定するのに対し、アワーレートの算定は煩雑でない。

### 3. 総作業時間変動の影響を受けない

実績単価の計算は、総作業時間変動の影響を受けるため、関与時間数に変動がなくても人件費の金額が変動することがある。

## 5. アワーレート(間接費込)方式による料金積算例

直 接 費	・物件費(備品費) ・物件費(消耗品費) ・旅費交通費 ・その他直接経費
	・教員人件費 (アワーレート×直接関与時間)

### 【アワーレート(間接費込)の算定方法】

アワーレート＝直接作業時間当たり人件費×(1＋間接費比率)

間接費比率＝間接費÷直接人件費

※ 間接費をアワーレートに含める考え方を示している。

### 【アワーレート算定上の留意点】

- グレード毎に算定
- グレード毎の直接作業時間、直接人件費の把握が必要
- 間接費に含める費用の範囲については検討課題
- 部局等セグメント毎に算定することも可能

## 6. アワーレート(間接費別)方式による料金積算例

直接費	・物件費(備品費) ・物件費(消耗品費) ・旅費交通費 ・その他直接経費
	・教員人件費 (アワーレート×直接関与時間)
間接費	

### 【アワーレート(間接費別)の算定方法】

アワーレート=直接作業時間当たり人件費

※ 間接費は別途積算する考え方を示している。

### 【留意点】

- 間接費の算定方法については検討課題

## 7. アワーレート方式を用いた場合の大学側の留意点

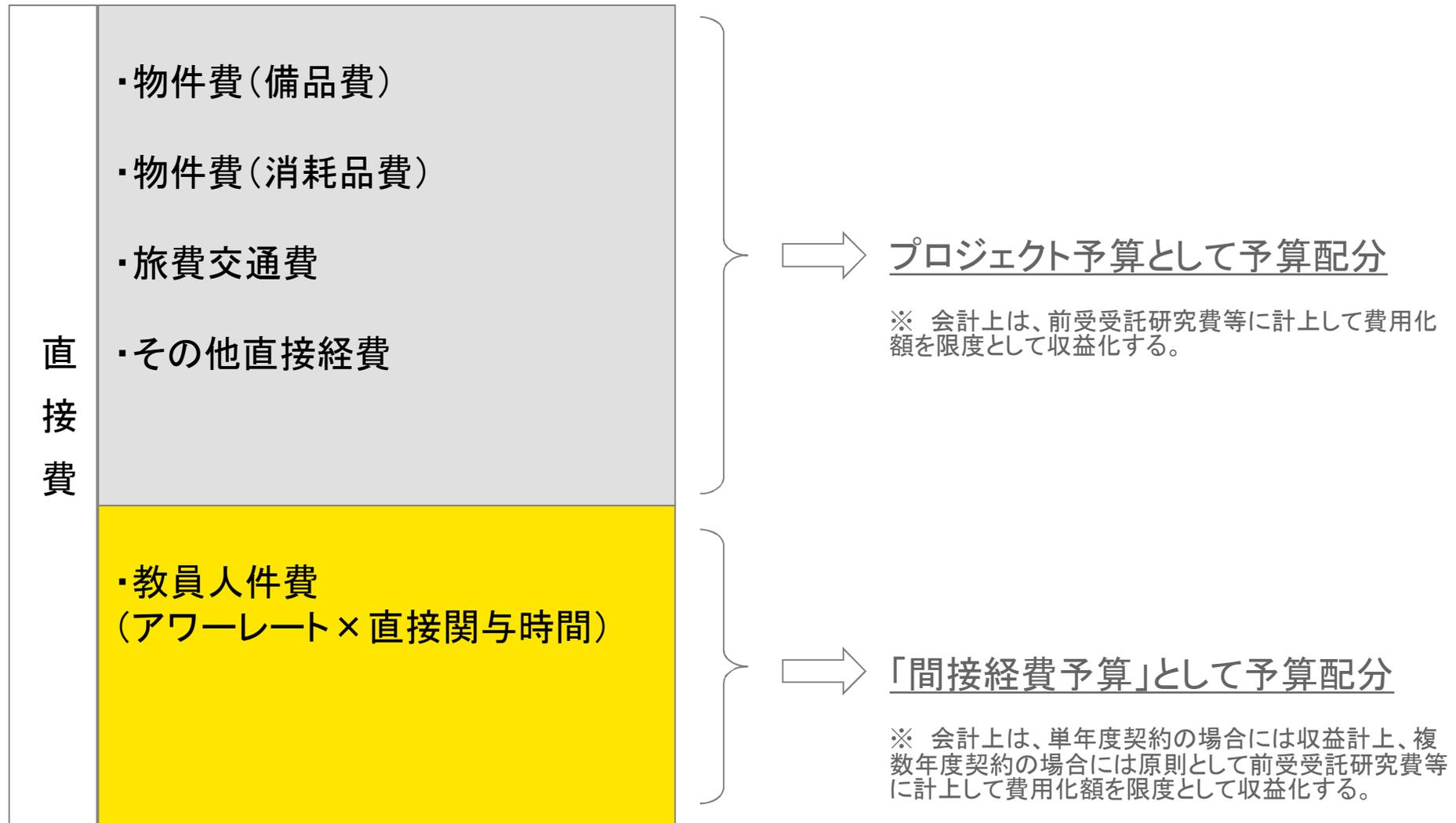
### 1. 料金積算上、アワーレートに基づく料金は直接費

共同研究等に教員が直接関わる時間をもとに積算した料金であるから、料金積算上は直接費として取扱うのが妥当である。

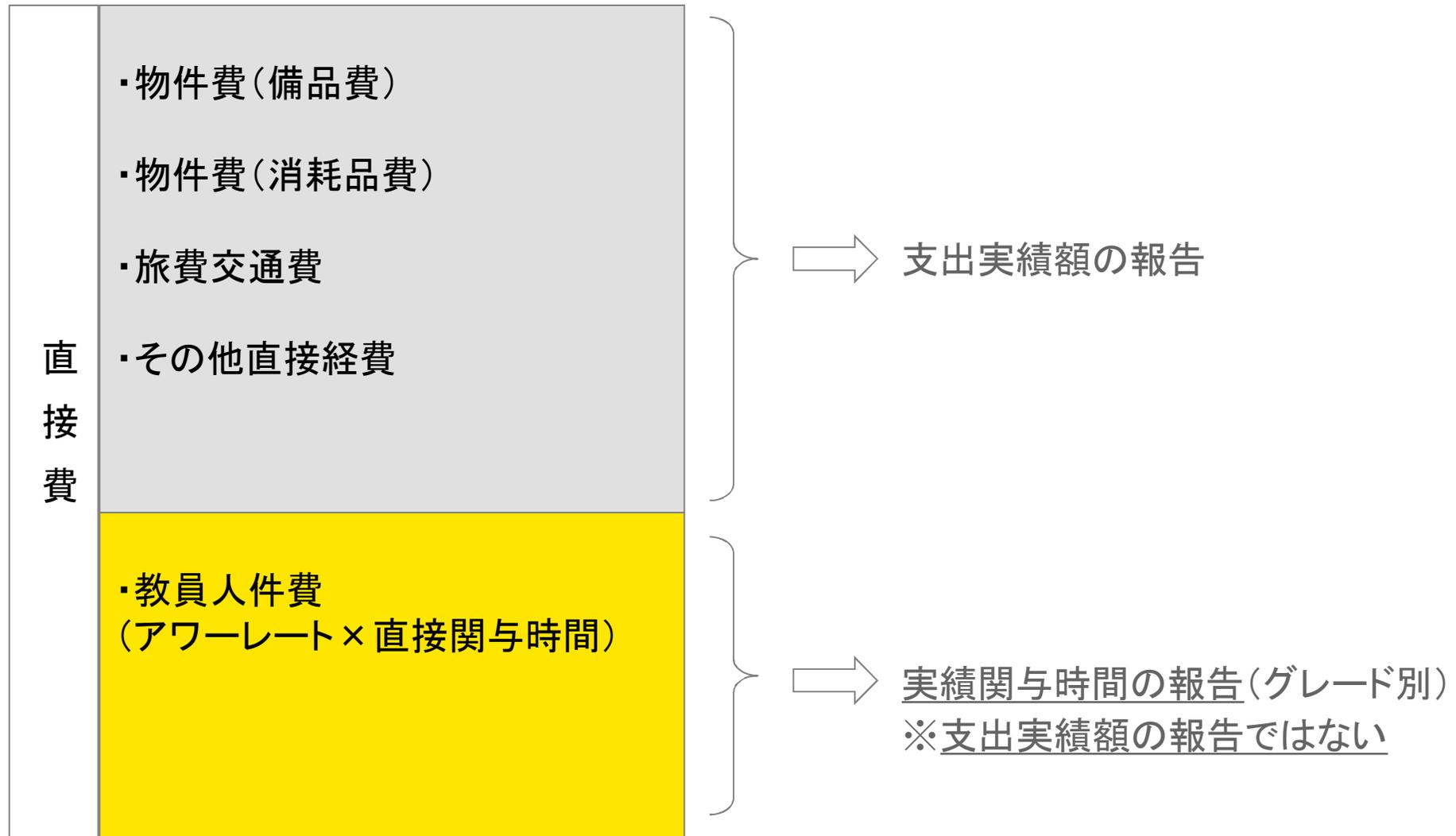
### 2. 予算配分上、アワーレートに基づく料金は間接経費予算

一方で、予算運用の観点からは、アワーレートにより積算した直接費は、従来のいわゆる「間接経費予算」として予算配分していくのが妥当である。すなわち、料金積算上の直接費＝予算上の直接費、料金積算上の間接費＝予算上の間接費という考え方を改め、積算した料金のうち直接経費分をプロジェクト予算化し、収入額との差額を「間接経費予算」として予算配分していくこととなる。

## 8. アワーレート方式を用いた場合の予算配分例



## 9. アワーレート方式を用いた場合の実績報告例



# 10. 研究開発プロジェクトの採算管理例

## <料金>

・物件費(備品費)	40百万円
・物件費(消耗品費)	20百万円
・旅費交通費	30百万円
・その他直接経費	10百万円
・教員人件費 (アワーレート50千円×予定関与時間200時間)	10百万円
合計	110百万円

## <原価計算>

・物件費(備品費)	40百万円
・物件費(消耗品費)	20百万円
・旅費交通費	30百万円
・その他直接経費	5百万円
・教員人件費 (直接人件費単価20千円×実績関与時間1000時間)	20百万円
合計	115百万円

5百万円の赤字を認識 追加請求を検討